

中学校第2学年 社会科

⑮交通路の整備と都市の繁栄

学習のねらい

- 身近な地域の歴史地図を扱うことで、地域について関心をもち、江戸時代の都市の様子について意欲的に調べる。
- 3つの時代の地図を比較することで江戸時代の都市の発展について多面的に考察する。

郷土の資源について

奈良では、平安時代以降、東大寺・興福寺・元興寺など奈良の有力な寺院の支配のもとで市が開かれ、手工業も発展した。

江戸時代には、幕府の直轄領として奈良奉行の支配下に置かれた。17世紀末の資料によると、総町数205、人口3万5千人となっている。産業では、奈良晒をはじめ酒・墨・甲ちゅう・刀・団扇などの特産品がたくさんあった。

現在は観光都市として栄え、年間1400万人の観光客が訪れている。

学習指導要領上の位置付け

歴史的分野 近世の日本 産業や交通の発達

学習の流れ

1. 産業や諸産業の発達

1時間

2. 交通路の整備と都市の繁栄

1時間

3. 江戸時代の奈良市の様子を探ろう（本時）




1時間

参考文献・Webページ

- ・地理院地図HP <https://maps.gsi.go.jp/>
- ・『県別マップル奈良県道路地図』（昭文社、平成22年）
- ・1730年頃の奈良町絵図：奈良町資料館で購入（背景等不明）



展開例（本時3 / 3）

	学習活動	指導上の留意点（※評価規準）	備考
導入	○前時の振り返り ○三都以外の都市の様子について考える。	・気付いたことを自由に答えさせる雰囲気づくりをする。	
	江戸時代の奈良はどのような都市だったのだろうか		
展開	○本時の問いに対する予想を立てる。	・まずは、個人で予想を立てさせ、発表させる。	
	○3枚の地図を用いて、各時代の変化した点と変化していない点を考える。 ・江戸時代の地図から →ため池が多い。農村。 ・明治時代の地図から →鉄道が通っている。ため池だった場所が、住宅地になっている。 ・現在の地図から →農村が住宅地に変化している。歴史的風土が保存されている。	  	<ul style="list-style-type: none"> ・明治時代の奈良周辺の地図 ・江戸時代の奈良周辺の地図 ・現在の奈良市内の地図
	○グループでまとめたものを発表する。	※江戸時代の奈良の様子について理解している。	
まとめ	<p>江戸時代の奈良にはため池が多く、その水は用水路を流れ、農業用水として使用されていた。このことから、農村が広がっていたことが分かる。明治時代になると、鉄道が通っており、ため池だった場所は住宅地に変化している。この流れは、現在にもつながっている。これらに反して、変化していない点は寺、神社仏閣の存在である。このことから、開発されてはいるが、歴史的な風土は保存されていることが分かる。</p>		